

編集センターのドアを開けると斬新なデザインで編集室が並ぶ

“ヤバイ!”ほど刺激する局内デザインの 大分朝日放送を見学

トコトン + 「ネット配信とローカル局の今後」を 考えてみる宿泊研究会

テレビ放送は60年で、「不動のマスメディア」という誰もが信じて疑わないパラダイムを生み出した。だが、このパラダイムは永久に続くものでもない。電波の圧倒的なリーチ力に対し、通信による動画配信の台頭が視聴と広告に変化を生んできた。

放送は「信用」と「信頼」を培ってきた。この先人が育ててきたパラダイムを、新たな時代に合わせて飛躍させること、それがニューパラダイムとなる。

そのためにトコトン話し込もう。青っぽい議論大歓迎、迷いも堂々と語る、そうしたことを通して新たな発想なり、アイデアに気づき合うことができるし、前へ動き出せるだろう。

そこで、“ヤバイ” っていうほど刺激的な局舎施設デザインで注目される大分朝日放送(OAB)に集まり、講演を交え、参加者同士の情報

と意見を交換し、ローカル局の今後を展望する宿泊研究会の開催を行う。なお、九州最大のプロ向け放送・業務機器展の「九州放送機器展 2017」が7月6日～7日と福岡国際センターで開催中。こちらも訪ねてみては。ぜひ、ふるって参加を!

テーマ ネット配信等とローカル局の今後を
大いに談義しよう!

参加定員 50名(先着順)
全国のローカル局メンバー、関係者など

会場 大分朝日放送(OAB)
870-8524 大分市新川西12

<http://www.oab.co.jp/>

- 会場は大分朝日放送(OAB)
- 開催日は7月5日(水)～6日(木)1泊2日
- 参加費は1人:1万7,000円(資料／1日目懇親・2日目昼食含／税込)
支払いは当日受付にて。領収書を用意します。

〈宿泊先は各自で手配〉

飛行機+ホテルのパッケージを使うと安くなることから、各自でホテルの手配をお願いします。

主催:月刊ニューメディア編集部／共催:マルチスクリーン型放送研究会(略称:マル研)／協力:大分朝日放送株式会社／
協賛:株式会社Jストリーム、NeuLion Japan合同会社、エレメンタルテクノロジーズ合同会社、カーナシステム株式会社、ブライトコープ株式会社



最新技術と全職員一丸。これを目指すOABデザイン

ローカル局初の「4K一貫制作システム」

2016年4月16日未明の大分最大震度6弱の30分後、報道フロアは報道スタッフをはじめ制作部、アナウンサー、営業推進部、音声技術、関連会社など各部署のメンバーであふれた

スケジュール予定

〈1日目〉会場：OAB別館 3F「多目的ホール」

- 13:00 集合／大分朝日放送 (OAB)
- 13:15～15:00 講演＋施設見学①
上野輝幸氏 大分朝日放送 代表取締役社長
「ローカル局だからできる“未来”の確信と創造」(案)
- 15:15～16:00 講演② 中西大介氏 Jリーグ 常務理事
「Jリーグから『ローカル局への期待と連携』
提案」(案)
- 16:05～16:35 講演③ 奥 律哉氏
電通総研メディアイノベーションラボ統括責任者
「『一周まわってテレビ』論の根拠
～オーディエンス視点から俯瞰する～」
- 16:35～16:45 休憩・名刺交換
- 16:45～17:30 フリートーク① 参加者からワンコメント
「私と局の紹介と今後について」
- 17:30～19:30 ホテルへ移動
- 19:30～22:00 情報交流会(会場：市内の宴会場)
- 22:00～ フリートーク②夜なべ談義
さまざまなメンバーで自由に(割り勘にて)

〈2日目〉会場：OAB別館 3F「多目的ホール」

- 09:00～10:00 ローカル局ネット配信の技術動向を学ぶ
①海外OTTの技術プラットフォームとサービス
②放送番組からネット配信用コンテンツ制作
③CDNの最新情報
④ローカル局へのCDN提案
- 10:05～10:35 講演④ 総務省情報流通行政局 依頼中
「地域ローカル局の施策と今後～
皆さんの議論を踏まえて」(案)
- 10:35～10:45 休憩
- 10:45～11:15 これからの考える発想と着眼
マルチスクリーン型放送研究会の取り組みと
参加者から 他、依頼中
- 11:20～13:30 フリートーク③全講師＋全参加者
「ネット配信問題の疑問、心配事を払拭したい」

※13時ころに昼食(弁当)

13:30～13:40 終了・解散

※予告なく変更する場合があります。

■ 問い合わせ先:

月刊ニューメディア編集部 担当:吉井、古山(フルヤマ) 電話:03-3542-5231(代) メール:yoshii@newwww-media.co.jp

■ 参加参加申込み方法(下記をメールにて)

- 名前 ● 社名 ● 所属 ● メール ● ケータイ

送付先メール: furuyama@newwww-media.co.jp